

全特協 会報

今後の特別支援教育が目指す共生社会の実現

全国特別支援学級設置学校長協会

会長 河本 眞一



特殊教育から特別支援教育への制度的な転換から丸5年が経過し、これからの特別支援教育を語る上では、「障害者の権利に関する条約（仮訳）」を整理し、インクルーシブ教育システムについて理解しておくことが極めて重要なことだと考えています。同条約の我が国の批准もそう遠い話ではないと思っています。同条約第24条「教育」には、次のよう書かれています。

1 締約国は、教育についての障害者の権利を認める。締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、次のことを目的とするあらゆる段階における障害者を包容する教育制度（inclusive education system）及び生涯学習を確保する。

2 締約国は、1の権利の実現に当たり、次のことを確保する。

- (1) 障害者が障害を理由として教育制度一般から排除されないこと。
- (2) 障害者が、他の者と平等に、自己の生活する地域社会において、教育の機会を与えられること。
- (3) 個人に必要とされる合理的配慮が提供されること。等々。

文部科学省の要請を受け発足した「中央教育審議会初等中等教育分科会特別支援教育の在り方に関する特別委員会」も平成24年6月8日、第19回特別委員会において、これまでの審議をまとめた「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（案）」がいよいよ形を成しました。特別委員会の議論の中での、一貫した共通理念は、「共生社会の形成」です。すなわち、如何にして共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システムの構築を図るかということでした。

インクルーシブな社会、共生社会の実現に向け、学校教育が担うべき責任は極めて大きいと痛切に感じています。すべての児童生徒に共生社会の形成者としての素地を育むために、今学校がすべきことを再確認し、実行に移すことが重要です。そのためには、まず、小学校・中学校において障害のある児童生徒と障害のない児童生徒とのインクルーシブな教育を、丁寧かつ着実に推進していくことが必要です。全特協としては、そのための各校長先生方の更なるリーダーシップの発揮を期待するものです。

結びになりますが、8月2日（木）3日（金）の2日間にわたった全国大会北海道大会が充実した研究協議会となり、幕を閉じることができましたことは、ひとえに北海道特別支援学級設置学校長協会、北海道大会実行委員長・高田章夫校長先生をはじめ、北海道大会開催地実行委員長・加藤正幸校長先生、北海道特別支援学級設置学校長協会、札幌市特別支援学級設置学校長協会の皆様方のご尽力の賜と、改めて感謝申し上げます。そして、全国より多くの校長先生方のご出席をいただき、大きな支えを頂戴しました。ありがとうございました。

第 49 回全国研究協議会 北海道大会

実行委員長 高田 章夫

平成 24 年度全国特別支援学級設置学校長協会 第 49 回全国研究協議会 北海道大会が 8 月 2 日(木)、3 日(金)に北海道札幌市において開催されました。

北海道大会では、「一人一人の教育的ニーズに応え、豊かに生きる力を育む 特別支援教育の推進と充実」を大会主題に掲げ、全国各地より 400 名を超える参加者を迎え 2 日間日程で行われました。今大会では、パネルディスカッションではなく対談形式のシンポジウムや、分科会でのグループ討議など、新しい試みにも挑戦しました。北海道からの発信を合言葉に全国各地の皆様と意見交流をすることができたことを大変うれしく思います。ご参会の皆様との出会いや交わした意見を基盤に、校長自らのリーダーシップを今後ますます発揮して、学校経営と特別支援教育のより一層の充実を図っていく所存です。

最後になりますが、今大会の開催にあたりまして、河本眞一会長様をはじめとする本部署員の皆様や全国理事の皆様、関係各位のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

< 行政説明 > 「特別支援教育の行政の現状と課題」

文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課長補佐 清重 隆 信 様

1. 特別支援教育の現状
2. 学習指導要領の改訂
3. 平成 24 年度特別支援教育予算
4. 障害者制度改革に係る教育分野の主要課題
5. その他の課題

< シンポジウム > 「特別支援教育をめぐる現状と課題について」

こころとそだちのクリニック むすびめ院長 田中 康雄 氏

(北海道大学名誉教授)

札幌学院大学人文学部人間科学科教授

塩見 啓一 氏

(前北海道札幌養護学校長)

< 実践発表・研究協議 >

1. 第 1 分科会「特別支援学級等における特別支援教育の充実と学校経営の在り方」

課題 1：特別支援学級に在籍する児童生徒の教育の充実と校長の取組

- (1) 旭川市立六合中学校 西谷内弘明 校長

旭川市における特別支援教育の現状から、個別の教育支援計画「旭川版すくらむ」を活用した実践例を挙げながら報告された。校内での活用例では、保護者との懇談はもとより、目標設定や進路指導での活用、通常の学級担任や教科担任との連携等に有効であることや、近隣の学校とのコーディネーター交流会や、小学校から中学校への連携に関する多くの場面でも有効であるとした。今後は、市内における共通の個別の教育支援計画「旭川版すくらむ」を更に市内や管内の全学校にて有効に活用する、広がりや充実へ向けての働きかけを行っていきたいとの抱負が発表された。

課題 2：児童生徒の進路指導を含めた地域の総合的な教育支援体制の現状と校長の取組

(2) 赤平市立赤平中央中学校 平間 芳樹 校長

赤平市における教育支援体制の現状が報告され、「赤平市しょうがい児教育推進連絡協議会(赤しょう会)」の動きと実践例が紹介された。市内の小学校1年生から中学校3年生までの障害のある児童生徒が年間を通して多くの行事を共にしながら成長していく実践例と校長の関わりも報告された。また、交流及び共同学習の推進の実践例や進路指導に関わる関係機関との連携についても、市内の中学校での実践や事例を基に発表された。

2. 第2分科会「学校全体で支える支援体制の構築と学校経営の在り方」

課題 3：幼・保・小・中・高・関係機関との連携と校長の取組

(1) 札幌市立西岡北小学校 渡辺 元 校長

札幌市の特別支援教育の推進について紹介され、札幌市特別支援学級設置学校長協会(札幌特協)の活動と基本理念の基に、札幌市幼児教育センターや市立研究実践園・私立幼稚園連合との連携が具体的に実現していく過程が紹介された。また、連携の具体として「幼稚園・保育所・小学校連合会」の開催や「授業公開や交流研修」の開催例が発表され、関係機関との連携が確立していく姿や校長の在り方や取組が報告された。

課題 4：関係機関との有機的な連携による支援体制の充実と校長の取組

(2) 釧路市立光陽小学校 森江 祐子 校長

釧路市の特別支援教育の現状について紹介され、特別支援学級や通級指導教室の増加実態や、指導員・支援員・担当教諭等の配置に関する発表がなされた。また、釧路市教育委員会教育支援課との連携強化や校長としてのリーダーシップの発揮が課題とされ、関係機関との更なる連携と校内支援体制の充実に向けての取組の両方に向けて、校長の果たす役割の大切さが提言された。

3. 第3分科会「児童生徒を支える教員の意識改革と学校経営の在り方」

課題 5：通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援と校長の取組

(1) 室蘭市立八丁平小学校 澤田 光男 校長

室蘭市の特別支援教育の現状を校長会の研修、特別支援教育推進協議会の立ち上げ、幼・保・小の引き継ぎ等から発表された。また、具体的な事例として市内2校の小学校での取組が報告され、実践から複数のコーディネーター指名による校内支援体制強化の有効性とその成果、人員確保(増員)によるTT指導や支援体制の強化から、小一プロブレムの防止ができたこと等の成果が発表された。

課題 6：教職員の意識改革及び専門性の向上と校長の取組

(2) 遠軽町立遠軽小学校 橋本 勝見 校長

オホーツク管内の特別支援教育の状況についての発表と共に、遠軽小学校における実践例が紹介された。校長の指導性についての具体的方策を9つ示し、その具現化を図った成果が発表された。また、校長としての特別支援教育に関する姿勢を校内職員に明確に示し、具体的方策を取る必要性が強調され、教職員への意識改革は、まずは校長のリーダーシップの発揮からという提言がなされた。

* 詳細については、平成24年度研究紀要3月発行版に記載予定

平成 24 年度 全国特別支援学級設置学校長協会秋季研究協議会
第 29 回 関東甲信越地区研究協議会 群馬大会

- 1 テーマ 「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」
- 2 日時 平成 24 年 10 月 26 日（金）
午前 10 時 00 分～午後 4 時 10 分
- 3 会場 群馬県社会福祉総合センター 8 階・大ホール
〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町 13-12
TEL 027-255-6000 FAX 027-255-6001
- 4 日程
- (1) 開会行事 10:30～11:00
主催者挨拶・来賓祝辞
- (2) 研修Ⅰ 11:15～12:00
実践発表(1) 「特別支援教育総合推進事業グランドモデル地域(安中市)の取組」
- 「子育て支援ファイル」の作成と活用を通して -
群馬県安中市教育委員会学校教育課 指導主事 磯貝 博 昭
質疑・講評 群馬県健康福祉部障害政策課
地域生活支援係 補佐(地域生活支援係長) 井上 秀 洋
- (3) 研修Ⅱ 13:00～14:30
実践発表(2) 「ニーズ教育実現への挑戦」 - 個別カリキュラムの編成と実施 -
群馬県高崎市立金古小学校 校長 倉林 正
実践発表(3) 「豊かな心を育む特別支援教育の推進」 - 交流に視点をあてて -
群馬県沼田市立薄根中学校 校長 新木 延 謹
質疑・講評 高崎健康福祉大学
人間発達学部子ども教育学科 教授 高梨 珪 子
- (4) 研修Ⅲ 14:45～16:00
講演 「発達障害児の指導方法が他の子どもに役立つのはなぜか」
- 多様性を重視した教育、共通性に着目して -
群馬大学教育学部 教授 久田 信 行
- (5) 閉会行事 16:00～16:10
主催者挨拶・次回開催地区代表挨拶（東京都）
- 参加費は無料です。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

第 3 回全国理事会・理事研究協議会のご案内

- ・期 日 平成 25 年 1 月 31 日(木) 2 月 1 日(金)
- ・会 場 和歌山県 ホテル アパローム紀の国 (和歌山市内)
- ・内 容 { 1 日目 }
副会長会 理事会 理事研究協議会 ブロック会 懇談会
{ 2 日目 }
本部説明 現地研修(和歌山県立たちばな支援学校、稲村の火の館)
- 本年度最後の「全国理事研究協議会」となります。ご参加をお願いします。東京での定期総会・北海道での全国研究大会に多くの方々にご参加いただきました。
ありがとうございました。